



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

会長 古田 和彦
副会長 金子 功
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 金子 功

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

古賀 健一郎

『なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。』

(マタイ福音書 6 章 28～29 節)

今月のひとこと

「ウェルカムフェスタのバザーに想う」

伊藤 誠彦



横浜中央YMCAでは、毎年、チャリティイベント「ウェルカムフェスタ」が開催され、横浜ワイズメンズクラブは微力ながらバザー会場でボランティアを務めさせていただいている。

バザー前日には、予めスタッフの方々が蔵出ししておくださった献品の品々を陳列し、値付けをする。バザー当日には売り子を務める。バザー当日には開場とともに大勢のお客さんがどっと押し寄せ、売り場は戦場のような忙しさになる。時間の経過とともに売り場は沈静化し、昼の時間が近づく頃には閑散としてくる。その頃になると場内放送で「バザー売り場では全品半額に致します」とア

ナウンスされる。終了と共に売上高を確認し、一喜一憂する。

毎年繰り返されている風景であるが、問題が無いとは言いが切れない。

一番の問題は、どのような人がどのような思いで献品し、その売り上げがどのように活用されようとしているのかが、必ずしも関係者に周知されていないことである。

バザー会場に陳列されている品物は、「この品物を少しでも世の中の役に立てて欲しい」という願いを込めて拠出されたものはずである。決して各家庭での不用品ではない。若し、不用品であればそれは献品ではなく廃品処理である。従って、値付けに当たっても献品者の想いと、購入者の購買意欲を斟酌しながら決定する。

購入者が何か掘り出し物はないかと目の色を変えて売り場を探し回る姿もあまり行儀が良いとは言えない。陳列の品は買ってあげるのではなく、買わせて頂くものだ。陳列の品はそこに来るまでに多くの善意の人々の働きがある。

値付けは必ずしも妥当に行われているとは限らない。従って、価格について買手と売り手の間で、多少の交渉が行われるのは止むを得ない。それをもって買い物客を非難するのは見当違いだ。

但し、「全品半額にいたします」というアナウンスメントは頂けない。まるで、目の前の品物がいくらかでの金銭に替りさえすれば良いと言わんばかりだ。それは、献品者の想いも、売り子の想いも、また、買い物客の想いも踏みにじるものだ。

では、どうすればいいのか。第一に必要なことは、「ウェルカムフェスタ」のバザーの意義をあらゆる機会を活用して、関係者全員を啓蒙することだ。対献品者にはどのような献品が喜ばれるのか、対ボランティアにはどのような態度で買い物客に接するべきか、対買い物客にはそれぞれが貢献した売

<2020年1月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 10名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 10名	83 % (メキヤップ 名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<2月の行事予定>

TOF

日	曜	時間	行事内容	場所
1	水	13:00	Change!2022 シンポジウム	東京Y社会体育専門学校
11	火	10:00	横浜Y会員大会・横浜クラブ第一例会	湘南とつかY
22	土	17:00	湘南・沖縄部大会	沖縄サンプラザホテル
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

り上げはどのように活かされるのか、等々。

第二に、バザー終了後に反省会を持ち、バザーを成功裏に運営するためのノウハウの蓄積を図り、次回以降のバザーに活かすことだ。なぜ売れ残ったのか、どのような品に人気があったのか、等を分析し、次回のバザーには、どのような献品を募集するのか、値付けは妥当だったのか等々。

第三に、「全品半額のアナウンスメント」は止めることだ。

「Y-Y's合同新年会兼1月第一例会報告」

古田 和彦

日時：1月18日（土）18：00～20：00

場所：横浜中華街 北京飯店

出席者：青木、伊藤、大江、大高、金子、古賀、齋藤、田口、松島、古田

例年同様、YMCAとワイズの合同新年会を当クラブ第一例会と位置付けて行う。出席者は上記わがクラブのメンバー以外、鎌倉、横浜とつか、厚木、横浜つづき、沖縄、横浜つるみの各クラブメンバーにYMCAからは主に担当主事、そして、東日本区から山田理事、板村次期理事、山下区書記を迎えて実施した。総勢40名であった。

第1部開会礼拝。部書記の伊藤康一ワイズの司会により、青木担当主事が聖書を朗読し、祈祷をささげた。次いで、横浜YMCAの活動のために献金をささげる。

第2部は式（例会）。こちら伊藤部書記の司会。一同で、ワイズソングを歌い、ワイズの信条を唱和する。森田湘南・沖縄部部長と田口横浜YMCA総主事の挨拶、そして、来賓として参列くださった山田東日本区理事が挨拶した。



挨拶をされる田口総主事

第3部は交流会。司会はこれも伊藤部書記。伊藤書記が食前の感謝の祈りを捧げ、部監事鈴木茂ワイズの音頭で乾杯した。中華料理を楽しむ懇親の時となった。ビジターとして参列の板村区次期理事、山下区書記を紹介し挨拶を受けた。また、参加各クラブを紹介した。

クラブからのアピールには、横浜クラブは今年創立90周年を迎えること、12月12日（土）記念の例会を持つことを報告した。最後に、本日の献金34,300円を横浜YMCAが元気に活動するための資金として、古田次期部長から田口横浜YMCA総主事にお渡しし、古田次期部長の挨拶で閉会した。



閉会挨拶中の古田次期部長

今回のトピックスは次のようであった。横浜YMCAの総主事が交代することが発表された。田口総主事が退任（同盟総主事に就任する）し、新しい年度から佐竹博氏が就任する。ワイズメンズクラブも新しい総主事の下、新たな気持ちでYMCA運動にかかわりたい。また、今例会には当クラブ会員10名参加となり、久しぶりに参加された松島ワイズと酌み交わすことができ感謝であった。残念なことは、悪天候に見舞われたこと、金沢八景クラブからの参加者が無かったことであった。



横浜クラブからの参加者一同

「東日本区 Change ! 2022 シンポジウム報告」

金子 功

2月1日（土）東日本区 Change!2022 推進委員会主催による「2019-2020 年度東日本区 Change!2022 シンポジウム」が東京YMCA社会体育・保育専門学校で開催され、100名を超えるワイズが参加しました。

最初に、栗本治郎推進委員会委員長の開会挨拶と本シンポジウム開催の趣旨説明がありました。要旨は「ワイズメンズクラブ国際協会創立100周年を迎える2022年までに現在の849名の東日本区の会員数を東日本区発足当時の1,246名まで回復させよう」というものです。山田敏明東日本区理事の挨拶に引き続き以下3項目についての発題がありました。

- ① Change!2022 に向けてのアクションプラン（栗本治郎推進委員会委員長）
- ② 16名から36名へ会員増強の実践（野々垣健五甲府21クラブ直前会長）

③ 新クラブ設立の動向（長尾昌男千葉ウエストクラブ設立準備委員長）

次いで参加者が10グループに別れ、アクションプランの4つの課題、①地域活動；②知名度の向上；③入りたくなるワイズの実現；④新クラブの設立について意見交換をし、その内容を各グループの代表者が発表してシェアしました。

最後に全会一致で次の「Change!2022宣言」を採択しました。

- ・私たちワイズ一人ひとりが現状に対する危機感を共有し
- ・知恵を出し合い、変えるべきことは勇気を持って変革し
- ・新しい取り組みについても謙虚に耳を傾け
- ・柔軟でしなやかな発想を持って、現状を打開するための努力をおしまず
- ・必ずや、2022年までに目標の会員数1,246名を達成する。

集合写真を撮った後5:15に4時間を越える長時間のシンポジウムが終了しました。湘南・沖縄部からの出席者11名のうち、横浜クラブからは金子、古賀、古田の3名でした。

「近況 世界遺産の古代遺跡を訪ねて」

青木 一弘



世界遺産として知られるアンコールワット。そこは、有名な世界遺産であるのみならず、世界最大の石造寺院であり、世界最大級の宗教建築である。1月末、この遺跡を見るためにベトナムから飛行機を乗り継ぎ、カンボジアのシェムリアップを訪れた。実際に見た感想は、写真で見るとは違い、その場の雰囲気、周りの緑、そしてそれを目的にやってくる旅行者も含めて全てが絵になっていた。この場所を訪れて、単に「美しい観光地であった」として終わるのではなく、少し踏み込んで、アンコールワットの歴史から何を学び、これからの時代にどう生かしていくかについて考えてみた。それは、多くの部族の宗教・文化の衝突を避けて互いに認め合うという「多様性の尊重と寛容な心」、海外との貿易や交流を行って生活の質を高めた「グローバル性」、溜め池や水路を築き、水をコントロールしたことや寺院の建築技術などに見られる「高度な技術力」、「農業での創意工夫」、地域の住民の生活や幸せを大事にした「平和への思い」など、当時の市民が試行錯誤を繰り返しながら知恵を絞って町を築いてきたその苦勞に感動せずにはいられなかった。アンコール王朝が実践してきたことには多くの示唆が含まれていた。人は歴史から学ぶことが多くあるが、「忘れないこと」、「風化させないこと」、「過ちを繰り返さないこと」、「未来に生かすこと」が大事である。それは例えば、これまでの幾多の戦争、事故、大震災等の天災など、私たちの身の回りにも多くの出来事がある。

歴史を紐解くと、人間の営みの素晴らしさと、その一方で人間の業の哀しさを感じることもある。アンコールワッ



トはその意味で両方を有しており、その意義を後世にきちんと伝えていくことはとても大切なことである。また、それほど経済的にも繁榮し、優れた統治を行っていても、いつかは滅ぶということも現実である。アンコールワットが外部から侵略され滅亡し、忘れられて長い眠りについたように、そこに人間の業の哀しさや歴史の重みも感じさせられた。「悠久」「壮大」「栄枯盛衰」など多くの思いを馳せずにはいられない場所であった。

「西端さんのことと例会充実の大切さ」

伊藤 誠彦

1月末、元横浜クラブ会員の西端国輝さんから2年ぶりくらいに思い掛かず電話を頂いた。

西端さんは2005年4月入会、2008年2月退会、2010年7月再入会、2013年7月退会。現在の会員でも西端さんのことを御存じの方は半数位になってしまいました。

外務省に勤務されていて、インド、アメリカ、オーストラリアに領事として赴任する間に遭遇・体験した出来事をまとめた「まじめ領事の泣き笑い事件帖」を2006年上梓され、この著書は同年12月の横浜Yクリスマス会で販売しました。また、2011年の秋の叙勲では、公務に長期間従事し功労を積み重ねたということで、瑞宝双光章を受章されています。

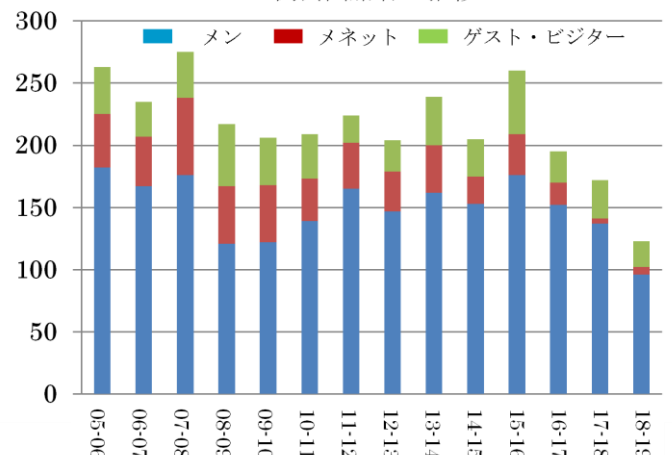
横浜クラブのブリテンにも軽妙でウイットに富んだ語り口の魅力ある記事を多数寄稿されています。

西端さんが退会されたのは健康上の理由です。現在も厳しい治療を継続されておられます。そんな西端さんが電話を下さったのはワイズの例会で、気楽にいろいろな人と会話し、楽しい時間を過ごしたことを思い出したからだとか。それを聞いて正直ハッとしました。現在の例会は西端さんがおっしゃるような楽しい時間になっているだろうか。

下のグラフは横浜クラブの例会出席者の推移である。クラブ会員数が減少しているの出席者総数が減少しているのは止むを得ない面はある。しかし、ここ数年はメネット、ゲスト・ビジターの人数が顕著に少なくなっている。毎月決まりきった面子のメンが集まって細々と例会を開催していることを示している。

ワイズ活性化の秘訣は「例会の充実」にあると言われるが、まずは横浜クラブの活性化はやはり例会の充実を図るしかないのではないかという思いを強くした。

例会出席者の推移



第二例会報告

大高 治

日時 : 1月23日(木) 17:00~19:00

場所 : 中央YMCA 811号室

出席者 : 青木、伊藤、大高、金子、古賀、古田

協議・確認事項

会の開始前に横浜YMCA語学事業部の責任者から小学生のEnglish Speech ContestにY'sの共催の打診があった。当日の参加、Y's特別賞、運営費補助の依頼である。本件は当クラブのみでなくとつかクラブ等の意向の確認が必要で、今年度の予算からの支出は出来ないと回答した。(当コンテストは20年以上続いており、希望の協賛金は1万円とのこと)

1. 行事予定の確認
2. 協議・報告事項
 - 1) 区費、部費、諸献金の支払い; 予算通り支払う。本年度上期の収支報告書を配布。
 - 2) 部役員会報告(次次期部長の選考)
次次期部長は古田当クラブ会長が承認されている。次次期部長については、輪番制の意見が出ているが、厚木クラブの推薦者があるので、その提案を見て検討し、4月の協議会にかけることにしたい。
 - 3) 次期役員候補
 - ・当クラブ; 会長(古賀)、副会長兼書記(金子)、会計(大高)、ブリテン(伊藤)
 - ・湘南・沖縄部; 部長(古田、横浜)、書記(伊藤、横浜)、会計(伊藤、沖縄)、地域・Yサ(金沢八景から)、会員増強(千葉、鎌倉)、国際交流(今城高之、つづき)、ユース(佐藤、厚木)
 - 4) 2月1日 Chnngel!2022 には古賀、金子、古田が参加
 - 5) 2月11日 会員大会の昼休みに404教室で第一例会開催
 - 6) 2月22日 部大会には青木、金子、古田が参加予定
 - 7) 横浜クラブの90周年記念行事の基本構想の確認と会場候補(崎陽軒)、経費の確認
 - ・12月12日、70~80名の記念式典、懇親会の部屋は確保出来る
 - ・懇親会費用の値下げをどなたかをお願いする
 - ・式典での式次第
 - ① 記念式典(礼拝、例会)
 - ② 懇親会
 - ③ 記念行事(タイのパヤオセンター訪問なら後日でも良い)
 - ④ 記念誌の発行
 - ⑤ ブリテンの編集; 次期の第二例会で棚を整理して実情の確認
 - ⑥ DBC; 熊本スピリットクラブとの調印
 - ⑦ 会費、祝辞、記念品の検討は後日

2007年、カナダの学校で、ピンクのシャツを着た子どもが、ゲイと言われていじめられました。それを知った、仲間が50枚のピンクシャツを調達し、翌日みんなで学校に着ていきました。また、驚くことにメール等で知った仲間も、ピンクの消しゴムや、ピンク色のモノを身に付けていき、それが高じていじめがなくなりました。以後、カナダ全土や、世界中でいじめられている子どもに連帯し「いじめ」をなくそうとピンクシャツデーが2月の最終水曜日に行われています。今年2月26日(水)がピンクシャツデーです。スタッフ・リーダー一同はピンク色のグッズを身につけて皆さんをお待ちしています。「いじめのない世界をつくろう」という思いにご賛同いただける方は、当日一緒にピンクグッズを身につけましょう。そして、いじめに対するアピールをYMCAと一緒に社会へ発信していきましょう!

●「奪われる子どもたち-貧困から考える子どもの権利の話」出版記念パネルフォーラム

子どものシェルター活動、若者の自立援助支援、ホームレス支援、女性の貧困問題を抱える沖縄など、さまざまな現場の活動報告に社会的な視点を交えて、いまだ現代日本で隠されている子どもの惨状を共に考えていきます。生きづらさを抱える子どもたち、若者たちの未来に心をよせる皆さま、是非、ご参加ください。

主催 富坂キリスト教センター

共催 日本YMCA同盟・教文館

日時 2月24日(月・休) 午後1時30分~3時30分

会場 YMCAアジア青少年センター

参加費 無料

申込み 事前申し込み不要

2月例会プログラム

日時: 2月11日(木) 12:00~13:00

場所: 横浜とつかYMCA 404教室

司会: 古賀ワイズ

ビジネス・報告: クラブ役員、監事の選出

Happy Birthday 青木一弘、大高治

例会報告 伊藤ワイズ

3月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
3	火	19:00	Y-Y's協議会	中央Y
7-8	土		次期クラブ会長・部役員研修会	東山荘
12	土	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
26	木	15:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080



担当主事 青木一弘

●横浜YMCA “PINK SHIRT DAY”のお知らせ

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★